

農林水産大臣賞

徳島すぎ製材品の供給基地から木造住宅の供給基地へ －県産木造住宅供給システムの構築－

徳島県木の家づくり協会（会長 佐々木 哲也）

□事業体の構成

県産木造住宅システムの協同組合 4 団体 徳島県森林組合連合会 徳島県木材協同組合連合会

徳島県木造住宅推進協議会 徳島県農林水産部林業振興課、農山村振興課、土木部住宅課

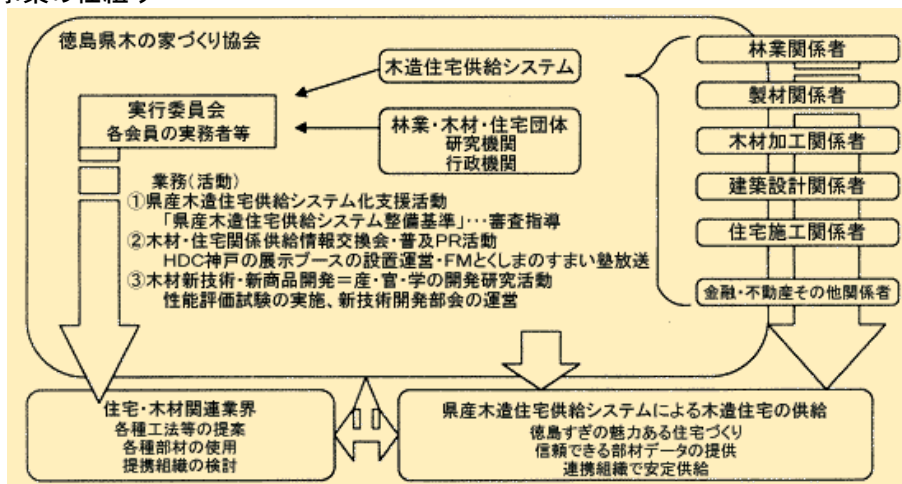
徳島県林業総合護術センター 徳島県国産材需要開発センター 徳島大学総合科学部

計 構成員 13 団体

〒770-8001 徳島市津田海岸町8-27 TEL 0886-63-4765 FAX
0886-62-2224



□事業の仕組み



1 地域の概要

徳島県は県土の76%を森林が占める森林県である。その所有形態もほとんどが民有林で、国有林はわずか10%である。

民有林の63%が人工林であり、人工林の75%がスギである。

製材等の木材産業は、県の主要産業であり、産業別工業の特化係数（全国平均の産業別構成比と県の構成比との比較係数）では、木材産業の係数が4～6と極めて高いものとなっている。

県南部では木頭林業地帯を流域とする那賀川中下流域、中央は徳島県木材団地を中心とす

る徳島市に、県西部は四国の中央部、池田町を中心とする三好郡に木材産業が集積している。

製材工場での約100m³の素材消費量のうち国産材は31%であり、外材主導である。国産材はほとんどの製材がスギを主力としている。また、製材品の出荷は大半県外出荷であり、その多くが京阪神地域となっている。

一方、徳島市周辺には家具、仏壇、建具等の木工製品の製造が多く、特に仏壇は日本一の生産となっているなど、木材加工の技術力の集積も大きい事が特徴である。

2 事業内容

(1) 事業の目的

徳島県では、平成2年10月に本州・四国連絡橋「明石海峡大橋」の開通を契機に、徳島県の発展を目指すための行動計画「3000日の徳島戦略」を策定した。

その48プロジェクト（後に追加事業もあり、51プロジェクト）、総額約8千億円以上になる県民総ぐるみの行動計画の一つとして、「県産木造住宅供給システムの整備」を位置づけ、徳島県の木造住宅建設に係る県内関連産業とともに近畿圏へ木造住宅を供給することにより、既存流通と相乗効果で県産材の需要拡大を図り、林業・木材産業の活性化を図ることを目的とする。

(2) 事業の内容

①県産材を使用した木造住宅を供給するための組織化の推進

システムは木材供給から販売、施工アフターケアまで広範囲なものを提唱し、具体的に、林業、木材産業、住宅関連産業が一体となった協同組合等を設立するための、県産木造住宅供給システム整備基準を定める。

また、併せてシステムを支援する機関を充実する。

●整備された県産木造住宅の供給組織

全体 徳島県木の家づくり協会
タイプ別システム

1. TSウッドハウス
2. TSウッドハウス協同組合
林業・製材5社、設計7名、施工7社
3. SBハウス
4. 徳島セーフティボード住宅協会
製材18社、設計6名、施工11社
5. SWS
6. 協同組合スーパーウッディシステム
製材・木材3社、プレカット1社、設計3社、施工1社
7. アウラ
8. アウラシステム
木材1組合、金融1社、設計2社
弁護士、不動産、税理士25名
9. ハウスG
10. ハウスG住宅センター協同組合
林業10社、木材市場1社、不動産・施工1社

●システムの支援関係にある組織・団体等

徳島県木造住宅推進協議会
(県内 建設・木材関係団体等)
とくしま木匠塾
(大工養成・認定職業訓練校)
徳島県木材協同組合連合会
(県内 木材関係団体等)
徳島県森林組合連合会
(県内 森林組合)
国産材需要開発センター
(県 試験場・オープンラボラトリー)

②木材・住宅関係供給情報交換・普及PR活動の実施

1. 各タイプ別供給システム関係者や林業者、集成材等製造者、建築士など木造住宅供給のため、
各種情報交換会の開催
2. 供給システム全体のPR冊子、パンフレットの作成
3. 県外での展示ブースの設置運営
4. 木造住宅相談窓口の設置
5. 展示フェアの開催、消費者セミナー開催、FMラジオ番組の作成

③木材新技術・新商品開発＝産・官・学の開発研究活動の実施
国産材需要開発センター（オープンラボ）を活用した各種性能評価試験の実施

1. 徳島スギ構造材（梁桁）実大材強度試験
2. スギ厚板の遮熱、断熱性能試験の実施
3. 壁パネル等の面内水平せん断試験の実施
4. スギの家具等のデザイン、試作外構部材（防腐等）のデザイン、試作
5. 各モデルハウスの調湿性能調査、ホルムアルデヒド調査の実施

3 施設の整備状況

システム供給事業体

プレカット工場	2工場（H6、H9）
CAD施設	2箇所（H7、H9）
製品乾燥倉庫	2箇所（H7、H8）
木材加工場	1箇所（H8）
住宅部材加工施設	2箇所（H8、H9、H10）
展示住宅	6棟（H7、H8、H10）
展示ブース	1箇所：神戸市（H10）

徳島県

国産材需要開発センター（オープンラボラトリー）の設置（H4、H5）
実大強度試験棟（各種強度試験）
木材化工試験棟（含浸、乾燥、環境試験、万能試験）

4 事業の成果

林業者から製材、木材流通加工、建築設計、施工関係者まで、幅広く、かつ有機的な連携が実現し、徳島スギの活用が各段階で検討されることによって、特徴ある住宅供給を行うことができ、住宅部材としての位置づけの低かったスギ材のイメージが改善され、粘り強い強度特性や断熱性、やわらかな感触など、本来の良さが生かされる仕様が開発され、ブランド化が進んでいるところである。

また、各種性能試験も部材の使用条件に合わせた実践的な内容を行っており、消費者に対する情報提供も活発になってきた。平成10年度からは、本格的に近畿圏に展示ブースの窓口を設け、各供給システムが互いに協力し、近畿圏も含めた大きなネットワークづくりに取り組んでいる。

5 今後の取組み

今後は、厳しい販売環境の中、コストダウンを図っていく必要があるため、さらに供給量を増大させることが必要となっている。

各種工程の中のロス無くすことはもちろん、トータルでの生産性を向上させる努力を行う必要がある。

また、徳島県の木の家作り協会を核としたPR活動と同時に、建築基準法改正から性能規定化が進む中、性能表示や性能保証のためには、各種試験を行い、データを蓄積するとともに今以上の品質管理体制やアフターケアをする体制づくりを行う。

県産木造住宅供給実績
(建築棟数：棟)

*プレカットによる部材供給は除く

システム名	T Sウッド ハウス	S Bハウス	スーパー ウッディ システム	アウラ システム	ハウスG	計
平成7年度	5	2	2	1	—	10
平成8年度	20	8	4	8	1	41
平成9年度	26	15	7	5	28	81
計	51	25	13	14	29	132